

昭和 23 年度第 9 回理事會 (日時) 23—10—12 (火) 16 時 30 分～19 時 30 分 (會場) 會議室。(出席者) 會長 山岡武。副會長 志村清次郎 (理事) 芥川武。菊池浩介。湯川正夫。橫山均次 (前會長) 依國一。三島德七。(監事) 田中清治 (常務委員) 石原善雄。俵信次 (主事) 金谷三松。

報告事項 1. 鐵と鋼の第 3 種郵便物認可あり(昭和 23 年 10 月 11 日附)10 月號より第 3 種として發送のことなる。2. 日本金屬學會、日本鑛業會、日本鑛物協會、日本鐵鋼協會連合にて學術會議會員候補者選出の議起り 23—10—6 及び 23—10—14 兩度の會議の後、三島德七君、飯高一郎君、眞島正市君を推薦のことなる。(3) 鐵鋼増産協議會生産技術部會の編成

成り。(部會長) 依國一君。(委員) 平岡富治君。山岡武君。安本生産局長。鐵鋼局長。(専門委員) 里村伸二君。大原久之君。吉川晴十君。福井眞君。石原善雄君。湯川正夫君。三島德七君。金森九郎君。笹部誠君。田中清治君。芥川武君。須永巳代治君。蜂谷茂雄君。伊藤正夫君。森崎晟君。川村吟次郎君。松原武三郎君。岡村塚三君。黒田泰造君。島村哲夫君。富山英太郎君。山達郎君。小田助男君。外島健吉君。植山正久君。市田左右一君。吉崎鴻造君 (幹事) 成廣清士君。入一二君。白石芳雄君。田中喜雄君。

協議事項 (1) 第 1 回學術會議會員候補者推薦の件。決定 (全國區) 三島德七。小平勇君。的場幸雄君。地方區は各支部にて決定。(關東) 山田良之助君。(北海道・東北) なし。(北陸) 絹川武良司君。(東海) 錦織清治君 (關西) 藤井寛君。(中國) 佐藤尚君。(九州) 谷村照君。(2) 秋季大會に出席の役員及び出張せしむべき職員の件。(3) 研究部會研究項目決定の件—未定のもの補填。(4) 評議員 2 名補缺の件。決定。木村幸次郎君。柳武君を推薦。(5) 旅費規則設定。承認原案通り等。

昭和 23 年度第 10 回 (臨時) 理事會 (日時) 昭和 23 年 10 月 19 日 (火) 16 時 30 分～19 時 (會場) 協會々議室 (出席者) (會長) 山岡武 (副會長) 志村清次郎 (理事) 佐々木吉備三郎。菊池浩介。湯川正夫 (監事) 田中清治。(常務委員) 谷口光平。(主事) 金谷三松 (報告事項) 學術會議會員立候補。推薦諸否の狀況。外 3 件 (協議事項) 1. 學術會議會員候補者推薦の件 (2. G. H. Q. へ報告すべき「戦時中發送せる鐵鋼業の狀況」調査に關する委員依頼の件。決定—志村清次郎君に委員長を御依頼し委員は同君にて立案の上詮議のこと。

昭和 23 年度第 11 回理事會 (日時) 昭和 23 年 11 月 10 日 16 時 30 分～19 時 30 分 (會場) 協會々議室。(出席者) (副會長) 志村清次郎 (理事) 芥川武。菊池浩介。佐々木吉備三郎。橫山均次 (前會長) 依國一。吉川晴十。三島德七 (監事) 田中清治 (常務委員) 谷口光平 (研究部會長) 里村伸二君 (主事) 金谷三松。

(報告事項) I. 第 36 回講演大會報告 (日時) 昭和 23 年 10 月 30 日 (土) 講演第 1 日。昭和 23 年 10 月 31 日 (日) 講演第 2 日。昭和 23 年 11 月 1 日 (月) 見學第 1 日。昭和 23 年 11 月 2 日 (火) 見學第 2 日。會場—講演大會 第 1 會場。大阪市北區新川崎町 聖徳館。第 II 會場 同上造幣局。第 III 會場 同上大阪市立都島第二中學校講堂—見學工場 第 1 日 (A 班) 中山製鋼株式會社。久保田鐵工所恩加島工場。日立造船株式會社築港造船所。(B 班) 株式會社尼崎製鋼所。日亞製鋼株式會社。大同製鋼株式會社尼崎工場 第 2 日 (C 班) 扶桑金屬工業鋼管製造所。株式會社神戸製鋼所海岸工場。川崎重工業株式會社葦合工場 (D 班) 栗本鐵工所本社工場。扶桑金屬工業株式會社製鋼所。汽車製造株式會社大阪製作所。出席者 申込總數 529 名 實際出席者 講演大會第 1 日 608 名。同第 2 日 544 名。見學參加者 (概數) 第 1 日 (A 班) 120 名。(B 班) 300 名。第 2 日 (C 班) 300 名 (D 班) 120 名。

(講演大會) 第 1 日開會に際し實行委員長廣田壽一君の挨拶あり。

次で商工省鐵鋼局長代理芹澤鐵鋼第一課長より一場の御挨拶を辱ふし。特に又大阪軍政部産業課在勤の Malcolm E. Craig 大佐より次の「メッセージ」を送らる。

29, October 1948

Memorandum:

To : Members of the semi-annual Conference of Japan Iron and Steel Institute.

Attention: Mr. Takeshi Yamaoka

I regret very much that previous engagements prevent me from being with you at the opening of your Conference

I am aware of the benefits to be derived from an exchange of idea at such an important meeting. you have my sincere good wishes for a successful and fruitful Conference.

yours very truly, Malcolm E Craig. Colonel, Infantry, Commanding

講演數 97. 出席者。講演、見學共豫期以上の大多數にて 4 日間共極めて超満員の盛況裡に終會を見たり。

II. 研究部會。A. 鑛物研究部會 (第 1 日) 日時 23—11—28 (木)

會場 尼崎市 久保田鐵工所尼崎工場 出席者 120 名

研究項目 鑄型に関する研究 B. 鑄物研究部會 (第 2 日) 日時 23—11—29 日 (金)

會場 尼崎市大谷興業株式會社 出席者 120 名

研究項目 ロールに関する研究 C. 製鋼部會 日時 23—11—29 (金)

會場 尼崎市尼崎製鋼所 出席者 60 名 研究項目 酸素製鋼

(協議事項) 1. 學術會議 會員立候補者有力推薦法考究の件 決定—推薦狀發送のこと

2. 戰時中鐵鋼技術史編纂に関する件 外 7 件

### 製銑設備調査團派遣に関する件

日本鐵鋼協會は商工省鐵鋼局長の委嘱により、製銑設備調査團を派遣することとなった。現在經濟安定本部に於て立案中の産業復興五ヶ年計畫の中鐵鋼五ヶ年計畫に就ては、商工省鐵鋼局に於て検討中であるが、その根幹となるものは勿論銑鐵の生産を中心とする高爐稼働計畫の具體化にあるので、計畫に現實性をもたせる爲、學術團體たる本協會に 9 月 27 附を以て國內製銑設備の現地調査が委嘱されたのであつた。

來年度の出銑量は右五ヶ年計畫に於ては一應 150 萬噸と見込まれているが、これを確保するには來年度に於て日産約 2,000 噸能力の高爐とそれに見合う日産約 2,400 噸能力のコークス爐を新に稼働せしめることが必要で、しかも何時どの高爐が稼働するかによつて銑鐵の生産は大きく變動する。本調査團の報告はその間の計畫立案に際し、最も信頼し得る参考資料として製銑設備復舊に要する資材資金、勞働力等の基礎資料を詳細に把握し、銑鐵を中心とする銑鋼生産計畫の決定に當り、重大な役割を擔ふものである。従つて調査は大局的見地より特に公平に且冷靜に行はれることが要望されている。調査團は別記の通り日鐵本社の里村伸二氏を長として以下現在の製銑關係の研究並に現場に於けるエキスパートを以て組織され、東西二班に分れ約 2 週間に亘つて調査を行ひ 11 月中には結論を得る豫定である。

(別記)

1. 調査工場……日本製鐵株式會社 (八幡, 廣畑, 釜石, 輪西各製鐵所)  
日本鋼管株式會社 (川崎, 鶴見各製鐵所)  
中山製鋼株式會社 (船町工場)  
小倉製鋼株式會社  
尼崎製鐵株式會社
2. 調査對象……熔銑爐關係, コークス爐關係, 燒結設備, 港灣運輸 (構内輸送を含む), 化工關係, 原料ヤード關係, 發送設備
3. 調査項目……(1) 設備の現状の調査 (2) 復舊工事の規模及順位 (3) 補充機械設備 (4) 所要資材 (5) 所要資金 (6) 瓦斯バランス (7) 勞務事情 (8) 勞務者用住宅
4. 調査團の構成……委員長 里村伸二 (日鐵本社)
  - 東日本班……班長 森山達邦 (鋼管本社)
    - 高爐 白石芳雄 (日鐵本社) 松室潤生 (日鐵八幡)
    - コークス 岡村冢三 (日鐵本社) 稻原利雄 (鋼管川崎) 白土清臣 (日鐵廣畑)
    - 燒結 藤田悌二 (日鐵廣畑)
    - 熱管理 設樂正雄 (日鐵八幡)
    - 一般 馬場技官 (商工省)
  - 西日本班……班長 里村伸二 (日鐵本社)
    - 高爐 入一二 (鋼管川崎) 山上秀雄 (日鐵輪西) 菊池正 (中山船町)
    - コークス 田中喜雄 (日鐵本社) 速水多根雄 (日鐵輪西) 安富繁雄 (鋼管川崎)
    - 燒結 高野廣 (鋼管川崎)
    - 熱管理 葛原義雄 (日鐵廣畑)
    - 一般 武安技官 (商工省) 木寺技官 (商工省)

昭和 23 年度第 12 回理事會 (日時) 昭和 23 年 12 月 8 日 (水) 16 時 30 分~19 時。(會場) 協會々議室。(出席者) 會長 山岡武。副會長 志村清次郎。理事 芥川武、菊池浩介、横山均次。前會長 俵國一、吉川晴十。常務委員 石原善雄。谷口光平。研究部會長 里村伸二。主事 金谷三松。

報告事項 I. 鐵鋼技術史編纂打合會 (日時) 23—11—16。(會場) 協會々議室。(出席者) 會長 山岡武君。委員長 志村清次郎君。理事 芥川武君、菊池浩介君、佐々木吉備三郎君、横山均次君。理事 田中清治君。常務委員 谷口光平君。特別出席 黒田正夫君。主事 金谷三松。(協議事項) 金屬學會と編集蒐録の範圍協定の件。決定。別に區別を設けず各自會誌の内容を集むる程度にて進むこと。II. 鐵鋼技術史編纂委員會第 I 回打合會(兼昭和 23 年度第 7 回編集委員會) (日時) 23—11—24。15 時~20 時(會場) 協會々議室。(出席者) 會長 山岡武君。委員長 志村清次郎君。委員 伊木常世君、里村伸二君、田中清治君、高橋哲四郎君、谷口光平君、湯川正夫君、横山均次君。編輯委員 長谷川正義君、濱本甲子生君、兒子茂君、吉田道一君。主事 金谷三松。

協議事項 1. 技術史編纂内容項目及び担当執筆者推薦の件。決定。2. フランス製鐵技術文献本部との資料交換に関する件。承認。交換のこと。3. 昭和 24 年 2 月號原稿選定の件。決定。III. 鐵鋼技術史編纂委員會第 2 回打合會 (日時) 23—12—1 (火) 13 時~19 時。(會場) 丸ノ内仲 6 號館三菱製鋼株式會社會議室。(出席者) 委員長 志村清次郎君。委員 芥川武君、伊木常世君、繪野澤喜之助君、里村伸二君、芝崎邦夫君代理毛利猷三郎君、田中清治君、高橋哲四郎君、谷口光平君、横山均次君、藪内周三郎君、佐々川清君、佐藤忠雄君代理富田勝信君、大野宏君。主事 金谷三松。(協議事項) 1. 技術史編纂内容及執筆分担者選定の件。IV. 賞牌注文に関する件

協議事項 1. 本會昭和 23 年度第 3 回東京(地方)講演會として、日本鑄物協會、日本金屬學會連合主催の下記講演會開催の件。決定。實施。23—12—10 (金) 13 時 30 分~14 時 30 分。東京大學法文經第 31 番教室。講演。將來の金屬及び合金に就て。講師。米國々立科學會會員ゼネラル電氣會社副社長ゼー・ジエッフエリース博士。  
2. 來春大會(第 37 回講演大會)の講演募集の件。決定。今回より申込みと同時に 1,000 字程度の講演大要を徴すること  
3. 來春開催の第 34 回通常總會に於ける表彰者及び研究資金贈呈者選定の件。次回再詮議。  
4. 來春總會及び大會實施上特に注意を要する件。  
a. 期日 4 月 2, 3, 4, 5 日と決定。b. 見學工場 次回迄考慮。c. 役員交代及び補充 次回迄考慮。d. 來春總會に至る迄の執務豫定期日案 承認原案通り。  
5. 入退會者及移動の件。承認。11 月末日に於ける現在會員數。  
名譽會員 8 名。維持會員 93 名 286 口。贊助會員 24 名。正會員及び學生會員 5257 名。總計 5382 名。  
6. 昭和 23 年 11 月分收支決算審議の件。承認

### ◇營業品目◇

鋳力板・口一毛板  
薄鋼板・其ノ他壓延製品

## 東洋鋼板株式會社

取締役社長 木村幸次郎

本社 東京都中央區日本橋横山町 5 番地(平和ビル内)  
電話茅場町(66)6819番 7165番 7166番  
支社 大阪市北區宗是町 1 番地(大阪ビル内)  
電話土佐堀(44)1061—3番  
工場 山口縣下松市東豊井 1302 番地  
電話下松 300番 305番